

江南北小学校区ハートフル・ミーティングの概要

- 1 開催日 平成 22 年 5 月 15 日（土）
- 2 場 所 江南公民館
- 3 参加者 40 人
- 4 会議の概要

○子育て支援・教育環境の整備

市民

資料にある「小学校学力調査」の平成 21 年度の市正答率が 95.3%と高い数字を示していて、これは埼玉県で一番いいのかなという気がするのですが。昔から、熊谷の小学生の学力は県内でもトップクラスでありましたが、江南地区も含め、秋田とか、さらに高い目標で努力していただきたい。

教育長

学力の順位云々はやらないようにしながら、熊谷は全国の 3 分の 1 以上に位置しており、秋田ほどではありませんが、上位との差は大きくないのです。引き続き上位を目指してやっていきたい。

市長

ゆとり教育から学力を大事にする学習指導要領が、小学校は来年から、中学校は再来年に完全実施することになりまして、学習内容が増え、教科書も 25%くらい厚くなるという話です。

熊谷市では 2 学期制の取り組みの中で、授業量の確保等に取り組んでいるので、遅滞なく移行できると思っています。もちろん現場の先生方も努力しなければならないことと考えています。

市民

3 減運動、4 つの実践は基本的な生活習慣を身につけ、健全な育成のために非常に大事であり、いいことだと思うのです。私は保護司になって 17 年になりますが、江南地域は非常に犯罪の少ないところです。

市長

お話、ありがとうございました。

市民

3 減運動、4 つの実践は、確かにこれがしっかりできればすばらしい子どもだと思うのです。でも、子どもたちは 4 つの実践の中で、呼ばれたら「はい」と元気よく返事することと、「ありがとう」「ごめんなさい」と言うことができているように思うのです。手本となる親が家庭でしっかりやっていた

だきたいのですが、学校でも徹底して話をしてもらえばなおいと思うので、よろしく願いいたします。

市長

親の背をみて育つではありませんが、もちろん親たちがしっかりとお手本を見せることも大切です。朝、子どもたちが学校へ行くときに「しっかり頑張って」と声をかければ、子どもたちも「はい、ありがとう」と言ってくれるかもしれません。こうした日々の積み重ねが大切であることから、親の努力はもちろんのこと、学校、PTA、そして地域の皆さんと一緒に取り組んでいこうということで、今日は地域の皆さんにも御協力いただきたく、このような話題を提供しております。

市民

子育て支援に関して、東京では働くにも子どもを預ける場所がなく順番待ちだというニュースがありますが、熊谷市の保育所待機児童の現状はどうなっているのでしょうか。

教育環境の整備に関して、扇風機設置の話がありましたが、クーラーの方がいいと思うのです。予算の違いでしょうか、その違いを教えてください。

もう一つ、熊谷市立女子高校跡地について、この前近くを通ったら閑散としており、活用されている状況が感じ取れなかったのですが、現在の活用状況と今後の活用方針を聞かせていただきたい。

市長

保育所の関係ですが、この場で待機児童の詳細はわかりませんが、ゼロではないと思います。県南や東京とは違い、困難な状況ではありません。

それから、クーラーの関係ですが、小中学校の図書室にはクーラーを設置しており、夏休みに出てきて自由に本を読んだり、勉強したりという状況にはしてございます。教室には扇風機を設置してありますが、確かにクーラーの方がいいと思いますが、財源の関係ですぐの対応は無理だと思っています。

市立女子高校の関係ですが、現在体育館などは団体登録の上、使用してもらっています。今後の活用の基本的な考え方は、生涯学習・スポーツの場として使える施設に転用していきたいと思っています。

市民

朝、子どもたちの登校時に声をかけていますが、口は動きますが声がでない子が多いです。私は法要のお説教の中で、子どもは親の背を見て育つというように、家族があいさつ等を実践しなければ、子どもはなかなかやるものではないと、家庭教育の必要性を話しています。今はほとんどやらせません

が、昔は親が子どもに庭掃きなどをやらせていました。また、近所で悪いことをすればげんこつをもらっていたように、愛のむちと虐待は違うと思いますし、そういうこともやはり必要なという気がします。

市長

今日いらっしゃる皆さんの中にも、ボランティアで子どもたちの見守りをしてくださっている方がたくさんいらっしゃるのだろうと思います。気恥ずかしさがちょっとあって、返事ができない子もいると思うのです。すぐにできるものではないので、声かけ運動や見守り運動は地道に長く続けていきたいと思いますので、皆さんの御協力もお願いしたいと考えます。

市民

教育環境の整備という観点から、2点教えてください。わが子3人が江南北小にお世話になっていますが、まず、真ん中の4年生ですが、スタートは1クラス18人でしたが、3年生からは一つの教室に38人の子どもが入って授業していました。やはり体も大きくなり、授業参観をみると窮屈そうです。熱気があって、先生もそのパワーに負けないように授業してくださり、学力向上補助員の方や支援者の増員を図っているのは、算数の授業等見せていただいてわかるのです。しかし、これがもし18人で2クラスのままで、さらに補助員の方がいらしたならば、より多く手をかけていただける場になると思います。

ですので、1・2年生の1クラス18人という特例措置のクラス編成を3年生以上でもできないでしょうか。

もう1点ですが、ゆとり教育ということで、熊谷市では2学期制を長いこと導入しておりますが、今後授業が増えても、土日休みのままでもこなせるカリキュラムになっているのか教えていただきたいと思います。

教育長

まず、クラスの人数のことですが、国で決められているので、熊谷市だけ何人というわけにはいきませんが、今の法律の範囲内で、少人数でやった方がいい授業は教科やその中身によってクラス編成しています。ただ国でも、市の意見を聞いてくれておりますので、近いうちに1クラスの人数が減っていく方向にあります。

それから、2学期制云々の前から、土曜日の休みというのは国で決められています。国のそのねらいは、家庭や地域で思考力や創造力などを育てることにありまして、それらは基礎知識を増やすことだけではつけることができません。ですから、教科書が厚くなったから土曜日も授業をしようという考えではなく、教科の中身の重要度を研究し、子どもたちの実態を見ながら進めて

いこうという方向でございます。

○活気とにぎわいの創出

市民

江南町当時、幼稚園が2クラスあったそうですが、現在では送迎バス・給食が廃止され、地域外の幼稚園に通うようになったため、1クラスに減ったと聞きました。保育所も送迎バスが廃止され、3年から2年保育になりました。バスはただ単に子どもたちの送迎という役目だけではなく、ルールを教えるという教育の一環とも思うのです。それから給食については、地域の農家から安心安全な食材の提供を受け、少しでも消費を増やすという点からも、考え直していただければと思うのです。

やはり人口増を図らなければ活性化しないと思うのです。人口を増やすためには、もう少し子どもに目を向けていただけたらと考えております。是非送迎バスと給食の復活について、もう一度考え直していただければと思うのです。

市長

送迎バス及び給食については、私自身は結論を出しているという認識をいたしております。合併協議の中で、熊谷市立の保育所・幼稚園は、市内全域で実施しておりませんでしたので、江南についても同様の扱いとすることで協議を進め、今それを実行させていただいております。

市民

国でも市でも少子化問題の解決には人口増の対策が必要であると思います。以前、バス1台1年で1,300万円くらいの費用がかかると聞きましたが、財政の面でのいうのであれば、保護者に多少の負担をお願いしたらどうでしょうか。

市長

バスの廃止は合併協議の中で決まったものです。市町の行政の違いはそれだけの話ではなく、色々と同じようにするためには、プラス面もあればマイナス面もあったかもしれないと思っています。それから、送迎バスの費用負担を保護者にしてもらうのは困難であると思います。

ただ誤解しないでいただきたいのは、バスのことだけを取り上げるとちょっと冷たいとか、元に戻した方が人は増えるじゃないかとそういったお考えは確かにあるとは思いますが、籠原駅の新たな保育所の設置により、便利となる親御さんも増えますし、中学卒業までの子ども医療費の無料化を実施しております。また、江南の幼稚園・保育所では、最近耐震工事

をしました。このように、行政はトータルでみていただきたいと私は思っています。

従いまして、考え直してくださいというお話に対しましては、申し訳ありませんが考え直しはできないというお答えでございます。

市民

以前、熊谷本島線というバスが出ていましたが廃止されました。その影響として、お年寄りが熊谷の病院へ通院するとき、運転免許証を持っていても運転ができないので、仕方なくタクシーを呼んで病院まで行くという状態です。また、熊谷方面に行っている高校生がだいぶいますが、バスがないために働くお母さんたちが駅まで送迎しなければならない状況です。

ですから、朝夕とかの 1・2 回、バスを運行していただきたいというのが皆さんの声なのです。

市長

赤字の路線バスは市街地の中でも撤退しています。それで、市内循環バスが江南地域以外のところで 5 系統くらい走っています。その 1 系統を新たに江南地区内に走らせたいという考え方もあって、どういう路線がいいのか、今年度中に決めていきたいと思っています。ただ、公共のバス路線は既存のバス路線と重複できないものですから、違う路線を考えなくてはならないと思っています。

今年度、地域審議会を始め地域の皆さん等の御意見を聞きながら、市内循環バスの路線を見直すことにしており、当然江南地内を走らせるように検討することにしています。そして、来年度のいずれかの時期からスタートしたいなと思っています。

市民

今年度の主な取り組みである「緑の基本計画の策定」に関して、三本自治会では駒形公園等を整備した結果、今年の桜の時期は例年になくにぎわっていました。やはり緑を保全しながらにぎわいをつくる視点が大切であると思います。その場合、当然開発の関係が問題になるわけで、一度失うと緑の再生は不可能に近いと思うのです。そこで、緑の基本計画の策定に当たり、緑が残っている江南の開発基準として、緑の保全を是非お願いします。

市長

具体的な提案をするのはこれからですし、パブリックコメントなどの手続きがあると思いますので、そういった機会にまたお話いただければありがたいと思います。私も骨子がわからないので具体的なお話ができませんが、地

域性に応じた土地利用はあってしかるべきであると思っております。

市民

熊谷市は熊谷次郎直実の地ということで、市街地に人を呼ぶ一つの観光として、熊谷寺の一般開放ができないでしょうか。

市長

熊谷寺は観光の場所ではなく、修行の場であるとの考え方があるものですから、我々もお願いしづらいところはありますが、中央公民館の直実市民大学の講師など色々な御協力をいただいております。

市民

重要文化財・平山家の活用策として、平山家を中心としたホタルのタペのようなイベントを我々が提案した場合、さくらめいとで出演者との交渉をしていただきたいなと思うのですが。

ホタルの方では、一昨年から吉見用水の上押切や樋春北辺りのホタルが激減しているため、吉見用水の水がカワニナの生息に適している状態なのかを板橋の先生に分析してもらっています。その結果が出たときなど、ホタルの復活に市の方でも御協力願いたいと思います。

市長

市民の皆さんがやる気を起こして手を挙げてくれれば、助成金の制度もあります。平山家でもコンサートをやったことがあるようです。これは教育委員会の所管ですが、文化的な行事であれば文化振興基金等もあります。是非色々職員に相談してみてください。

○市長のまとめ

前回も色々御提案等々いただいて、川のところのフェンスが危ないとか、街路灯が暗いので市で設置してくれないかというのがありましたが、ある程度は完成していると思います。今日も実は、前回課題のところを一回りして来たのですが、まだ難しいところもあるようでございますので、継続してやっていきたいと考えております。

今日頂戴いたしました御意見も、すぐに実現できるものから課題として承るものも色々ありますが、私たちはそうした皆さん方の意見をしっかりと行政の中に反映できるように頑張っていきたいと思っておりますので、引き続き色々な面で御指摘いただければありがたいと思っております。

今日は貴重なお時間をいただきましたことを改めて感謝申し上げまして、
本日のお礼のごあいさつとさせていただきます。